



## TOPICS

## 社外取締役インタビュー

ヤマシンフィルタはかねてから取締役会の多様性を重んじており、2023年6月に初めての女性取締役を登用しました。経営の中核に新たな価値観・視点が加わり、更なる企業価値向上につなげていきます。

## 社外取締役 吉川 美代子

1977年に現株式会社TBSホールディングスに入社し、アナウンサー、キャスターとして活躍。TBSアナウンススクール校長を兼任。2014年に同社退職後、京都産業大学の現代社会学部客員教授に就任。

## ——ヤマシンフィルタに対する率直な印象と、当社に期待することをお聞かせください。

ヤマシンフィルタは、「YAMASHIN NANO FILTER®」をはじめ世界に誇れる技術を有する一方で、それに見合った知名度を確立できていない現状があり、大変残念に思っています。

当社は培ってきた高い技術力で社会貢献や環境保全に関与できる企業です。あとはそれを広く社会に向けてPRしていけるか。そこが、さらなる企業価値向上に向けての鍵となるはずです。

## ——会社としてあるべきガバナンスとは？

まだヤマシンフィルタの社外役員に就任してまだ2カ月（※アンケートは8月に実施）と日が浅いので、当社に限定せずにガバナンスに対する考えを述べます。近年、企業や組織で問題が起こるとすぐに「ガバナンスが機能していない」という声を耳にします。批判する側も当事者である組織側も、問題を解決させる魔法の言葉のように「ガバナンス」と口にします。しかし、組織とは人が集まり、考え、判断し、行動している場です。そこで働く一人ひとりが組織全体の利益、株主への利益、公共性を考えて行動しないかぎり、「ガバナンス強化」と経営側が強調したところで問題解決には至りません。まずは、社内での役割分担とその責任を明確にし、曖昧な部分をなくしていくことが「ガバナンス」のスタートだと考えます。

## ——社外取締役として求められている役割についてお考えをお聞かせください。

放送の仕事、アナウンススクールでの後進の育成、そして大学で教鞭を執る現在の経験から、若者から高齢者まで、コミュニケーション能力の低下が深刻だと感じています。ジェンダー、コンプライアンス、ガバナンスなどの面について、新たな視点で意見を述べていくのはもちろんですが、同時に、人との関わりにおけるすべての基礎はコミュニケーション力にあることも伝えていきたいと思えます。

## ——女性活躍に関する社会の潮流、ヤマシンフィルタの現状をどのようにお考えですか？

本来の平等とは、男女関係なく、個人の能力や適性を評価基準にすべきものです。しかし現在の女性活躍は、数や割合という数字上の「結果の平等」となっているように感じます。本当に必要なのは、個人が能力や適性を十分に発揮できるような「機会の平等」です。社会的圧力を感じて、数合わせのために能力が不十分の女性を管理職にするのは本当の「女性活躍」ではないと思います。

当社に関して言えば、もともと女性従業員の比率が低い会社なので、女性管理職が少ない現状には仕方ない面もあります。ですからまずは、女性の採用を増やす、離職をなくすための方策を考える、定期的に女性従業員の意見を聴く機会を設ける、といった取り組みから着手するのがよいのではないのでしょうか。